

『立ち入り禁止』 作…ポチ子

夜、学校の屋上にいる2人。

由紀 「立ち入り禁止の場所って興奮するよね。」

永人 「そんなんお前だけだよ。どうすんだよ、バレたら停学確定

だぞ。」

由紀 「そういいつつ、来てくれたじゃん。」

永人 「俺は、夜中に学校に忍び込んで、屋上で天体観測しようとか言う馬鹿を止めに来ただけだよ。」

由紀 「結果、止められずに共犯者なる無能。」

永人 「まじお前ぶん殴るぞ。」

由紀 「いいじゃん。そんなこと心配したって無駄だよ。見つかったときは見つかったとき！今は今を楽しむの！」

永人 「はあー、お前の能天気さには心底感心するよ。」

由紀 「褒めてくれてありがとう。」

永人 「どういたしまして。」

由紀 「いやー、やっぱ思った通り！夜中の屋上は最高だね！ほら、星に手が届きそう！」

永人 「俺にはぶつぶつの白い点にしか見えない。」

由紀 「もー雰囲気無いな。」

永人 「夜に空見上げるのの何が楽しいんだよ。家でゲームしてえ。」

由紀 「別になにも楽しくなくていいの！ほら、永人。」

永人 「何？うあっ！」

由紀、永人を仰向けに押し倒す。

永人 「いってー……。なんだよ、急に押すなよ。背中打ったわ。」

由紀 「へへっ……。こうやって寝転がって星を見ると、自分が

空の上にいるみたいない気分にならない？」

永人 「はぁ。」

由紀 「どんどん空が近づいてきて、自分が星の一部になるの。」

永人 「……ふーん。」

由紀 「それに横になると、世界にいるのが私と永人の二人だけに
なったような気がして、私は好きだな。」

永人 「えっ」

由紀 「ん？何？」

永人 「いや、何でもない。」

由紀 「そう。」

永人 「……あとどんくらいここにいんの。」

由紀 「うーん。飽きるまで？」

永人 「ふっ。あーあー、長くなりそうだな。」

— 終わり —